

第9回 逗子の未来協議会 グループワークまとめ

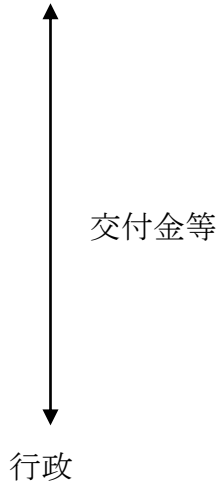
<協働は必要ですか？><市民協働のまちづくりで望ましい姿や仕組み>

グループ1

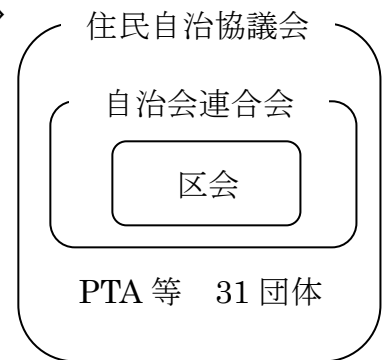
<協働は必要ですか？>

(小坪)

- ◆ 住民自治協議会=協働そのもの



フランクに言いたいことを言う
市民協働課長につながり、⇔
改善されるようになった
(自治会でできないこと、
今まで議員に要望を出して
いたこと)
↓
協働必要



△学校 △財政的
△道路 (フタ)

- ◆ 商店少、住民の祭大事にしている。誰でも受け入れてくれる
- ◆ 分譲地あり、祭にしても、外者NGの向きもあつたがなくなってきた

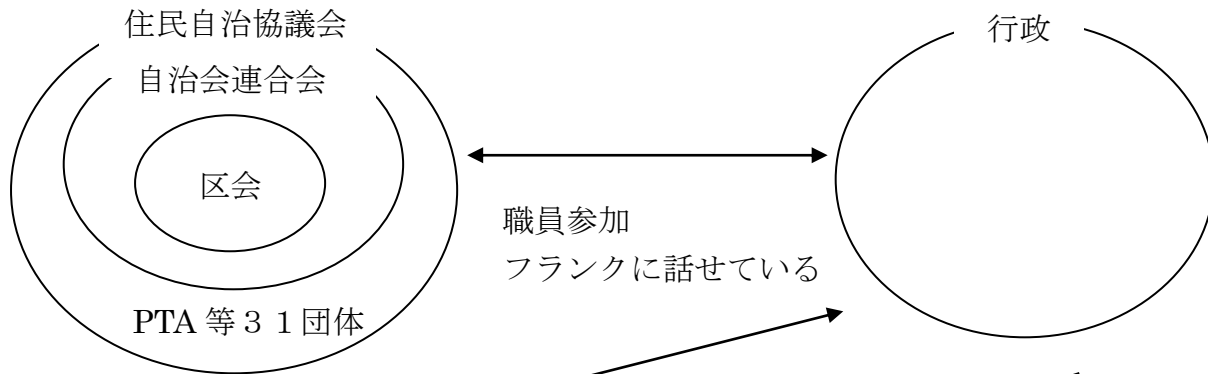
(逗子)

- ◆ 協議会(未)
- ◆ 自治会ごとに役員持ち回りで運営 → 入ってなくても困ったこと余りない
- ◆ 商店街、ある所
ごみも出せる
商店街もやってくれている部分ある
子ども会もない
- ◆ 逗子：少、桜山、久木：3つ、小坪：漁村あり、新宿
- ◆ 祭は協働とはまた違う
→ 伝統、商店街独自
- ◆ 防犯、防災で
↓ 向こう3軒両隣何かあつた時困る
商店街パトロールやってる時もあつた
かつて自営業多かつた(自宅兼店舗)。今はよその人も多くなつた。

(小坪)

- ◆ 住民自治協議会と行政は協働できている
- ◆ 協働

||



- ◆ 自治会で解決できない問題 市民協働課長に伝わる
- ◆ これまで議員に要望書出していたこと 改善（1か月ほどで）側溝のふたなど

(逗子)

- ◆ 自治入っていなくても困ったことあまりない
- ◆ 祭りは協働と違う。伝統や商店街独自。
- ◆ 商店会による防犯・防災パトロールあった
- ◆ かつて自営（自宅兼店舗）だったが今はよそから来る人も多い。

＜市民協働のまちづくりで望ましい姿や仕組み＞

- ◆ (例) 医師会、スポーツクラブ、個別の固まりをつなげる
- ◎ いかに関係・個の力をまとめて広げられるかが市の仕事
- ◆ やっていかうとする努力は見える。市の横のつながりを市民とも広げてほしい。
例 (自然の回廊+健康)
- ◆ 祭：参加グループ、料理グループをつなげて活性化する。
祭の参加人数が増えることが活性化ではなく、個別のグループがつながることが活性化と言えるのではないか
- ◎ 市民のニーズ掘り起こして、協働しやすい雰囲気づくりが必要。コーディネーター
- ◆ 市：施設作る ⇔ 市民：どういうものが欲しい？もっと生の声を出した方がいい
- ◆ どのように声集める？レベルアップして
- ◆ この分野では協働したい、あの分野ではNGなどもあるのでよく聞いて
- 参加のレベルが上がれば協働になる。
- ◆ 行政も変わってきている
- ◆ 望ましい姿「協働のあり方」
- ◆ 市民と行政のできること、違う、はっきり分けた認識をもって仕組みをもってやると効果的か
- ◆ 市民だけのものと行政だけができるものをスケールアップするために協働する
(例) ごみ
行政のルール → 市民実行する
- ◆ この会に来る度に分からないこと
本会は、市民の固まりつくりたいのか。ごみは個人でやるもの
(例) 介護保険：市民1人1人に健康になって全体抑えられる。
- 市民1人1人が出来る仕組みを作った方がいい
個人のネットワークを市が固まりにする
市は集まりやすいスポーツ施設を作るなど
- 税金の使われ方が分からない。ニーズがあって使われていたらいい
→実態が分かれば行政が何を求めているか、市民は何が出来るかなど協力できる

グループ2

<協働は必要ですか？>

- ◆ 協働という言葉、日常であまり使われていない。イメージしづらい
 - ↑
 - 自分の方から提案できるイメージ
 - 双方向から
- ◆ 制度としてあれば、自然と参加できる
- ◆ 市民協働課、どんなことをやっているの？
- ◆ 個人として、団体として、出来る範囲でお互い支えあう。

} 言葉のイメージ

(資料について)

- ◆ 検討プロセス、わかりづらい、協働がどこにあらわれているか

- ◆ 市民としての自覚、自分が携わったことが形になると達成感を得られる。
- ◆ 1人1人がバラバラではなく、同じ方向で取り組む

} メリット

<市民協働のまちづくりで望ましい姿や仕組み>

→ このテーマの意図は？毎回同じような繰り返し

- ◆ 市民協働課、どんなことしてる？
- ◆ 協働 静 → 動へのイメージ、協働に参加する人、役割をシャッフルする必要性が出てきた

〔ex: アダプトー公園整備、月に1回掃除-草刈は市、掃除は市民が毎回やる
得意なところは得意な人がやるイメージ

→ ※具体例を話し合う前に例示してもらえると話しやすい

- ◆ 1人1人=市民参加。団体活動=協働。
- ◆ 行政と市民での協働、市民意見がどこまで反映？
- ◆ 形としてどう表れるかが不透明 協働進まない
- ◆ WS、今までの積み重ね、形で示してもらいたい

◇ パートナリシップ = 立場の尊重

→お互いの強みを生かして。必ずしも市民⇔行政ではない
市民⇔市民、これも協働。

グループ3

<協働は必要ですか？>

- ◆ なりゆきとして必要とされてきた
- ◆ 協働 市からの働きかけ？⇒やらされ感
市民からの働きかけ？
ex：ずし平和デー
- ◆ 男の料理教室、若宮会
- ◆ 場所の提供は大事（行政）
⇒必要

<協働のあり方>

- ◆ 住民協そのものが協働
人的支援…地域の困りごと、解決しやすくなった
- ◆ 個人が参加できる協働がないのはおかしい
資料⑤代表市民の参加
- ◆ 市民協議会の良い点・悪い点 ⇒ノウハウの共有が大事（市民にも・職員にも）
- ◆ Zen はよろしくない。ボランティアでやるべきもの

グループ4

<協働は必要ですか？>

協働

場面（必要）

- ◆ 本来すべきもの、接点
- ◆ 市民側→行政側
- ◆ 行政側→市民側
- ◆ 市を良くする（役割分担）
- ◆ 逆に必要がないもの（行政で全部できること）
- ◆ （市民が全部できること）
- ◆ 向上につなげるもの協働。（市民生活）

どんなよいことがあるか

- ◆ 例えば鎌倉市の花火大会
- ◆ 例えば子ども登下校時のパトロール
- ◆ 公園の世話（アダプト）
- ◆ ゴミネットの管理

<市民協働のまちづくりで望ましい姿や仕組み>

協働

- ◆ 小学校区（地域市民協働推進員）
- ◆ 市の職員の意識（先決）が変わって、話がスムーズになった（声を聞いている）
↓
- ◆ 職員の（柔軟な）行動範囲をとれるようにする

望ましい姿、仕組み、あり方、方法

- ◆ 防災・（地域・行政）情報共有
- ◆ 訓練・イベント同時に行う
- ◆ 事業者（商店）が（市民・行政に）加わっていく形
- ◆ 市民と行政（win-win）望
- ◆ 地域と市でイベント開催
- ◆ 市民（個人、自治会、声の大きい人・小さい人）様々である → 職員が気づくようになる。

グループ5

<協働は必要ですか？>

- ◆ 唐突、必要といわれても、協働の意義、意味をもっと咀嚼する必要がある
- ◆ 個人単位が参加できるのが本来 ⇔ 逗子は団体ありき
 - ー自治体に入れない人もいる
- ◆ 市民の顔が見える ← 参加しやすい。もっと市民の意見を吸いあげられる
- ◆ 小学校区、自治会内でも様々な意見がある。世代、個人。
- ◆ 必要が生じたときに、その必要を感じている人が、個人単位で参加できる仕組みがあるとよいのでは
- ◆ 市は、住民協小学校区ありき、普通に生活している人、子育て世代、団体に属していない人の参加はない。意見を聞いているのか
- ◆ 市民協働事業提案制度も団体のみ、個人が参加できるものを行政がつなぐ

<協働の在り方>

- ◆ 「協働」～知らず知らずのうちに参加している。システムを利用している。zen
- ◆ 市民生活・行政の向上を図るためには「協働」は必要
- ◆ 市民から、団体から、必要があって出てくる要望 ← 行政サポート
- ◆ 行政から、市民へ
- ◇ 「協働」が必要ない時、場面はあるのか？
- ◆ 行政が場を提供して、市民が自然と参加できる。リユース、zen、交流センターある程度のサポート
- ◆ 団体が場を提供して、市民が参加するパターン
 - ↑
 - 必ずしも運営側に入る必要はない
- ◆ 気づかないうちに、「協働」やっている！

グループ6

<協働の必要性>

- ◆ 財政運営の問題 → 市民との協働が必要になった
- ◆ 質問の意図が不明
- ◆ Zen は機能しているのか? → 不要
- ◆ 検討段階での学識は不要
- ◆ 協働 → やらざるを得ない面も

<協働のあり方>

- ◆ 必要かというよりもやらざるを得ない → あたり前
- ◆ 税込減、高齢化 → 今までのやり方では立ち行かない
- ◆ 海岸清掃 → 多くの人に呼びかける
- ◆ 予算があれば、協働の部分は小さくなる

やらないと生活が困る → この部分は協働が必要

よりよい生活を求める → ごみステーションの管理 } 協働が必要

- ◆ 高齢化 → 自分の身の回りのこともやるのは難しい
- ◆ 自治会による管理（自治会を拒否する人も…） → 強制的にやる場面も必要では…
→ 「気づき」が大事
- ◆ 防災面で

グループ7

<協働は必要ですか？>

- ◆ 子ども減り、高齢者増える → 税負担
- ◆ 協働の理念を作る
- ◆ 市民の力を借りて、市民が自分でよくしないといけない
自分たちのために自分たちで働く。協働は必要
- ◆ できることは市民が職員を助ける
行政の質 { 市ができないことは市民がやる
スケールアップ { 市役所と違うことをやる。一緒に行く
人間同士の助け合い。質と量を上げる
- ◆ 動くことに人がついて（人が動く）。ハタラクになった
逗子で使う協働の枠組みを作り、そこから出てはいけない
- ◆ 市民同士の協働でできることはたくさんある
- ◆ 何でもかんでも協働できるわけではない。
テーマづくり、分担が必要 → 成果を上げていく

<協働、まちづくり、望ましい姿や仕組み>

- ◆ 協働を意識してない人もいる
→ こういう人をどうするか？ 困り事などを助ける
→ 行政がやってあたり前ではなく、お隣の困りごとを聞く ← 困っている人が相談できる場づくりも
- ◆ やってもらってあたり前ではなくなっている
→ 例：青少年会館バラバラに作り、維持できなくなった
- ◆ 強制的に行うという手法もありかも？
- ◆ コミュニティの話し合い
- ◆ 意識の改革（一緒に汗を流す）
- ◆ 人が集まる場所が必要
- ◆ 300M 以内のコミュニティが望ましい
話し合うことのできる場。空家の有効活用
→ 予算がかかるが行政だけの負担ではなく自治会でやるなど
- ◆ 顔見知りになること → 風通しが良くなり一つの方向に行く。交流ができる
- ◆ 眠っている資産を活用。市民もあわせて考える
自分たちはどうしたいのか？ 困っていることを出し合い次の世代に生かす。
プラス方向へ発展。そのための仕掛けは行政が行う

グループ 8

<協働の必要性>

- ◆ 具体的な場面を想定しないと分かりづらい



- ◆ 自分が抱えている問題を出し合う
- ◆ 「協働」にあてはまる他の言葉が必要
- ◆ 社会的弱者のために必要
- ◆ 言葉の定義が必要。「協業」？「参画」
 - 定義が共有できないとスタートできない

役所の仕事

↓ + ↓

新しい事務 空家、介護など

↑ ↑

市民生活

役所の規模を大きくできない

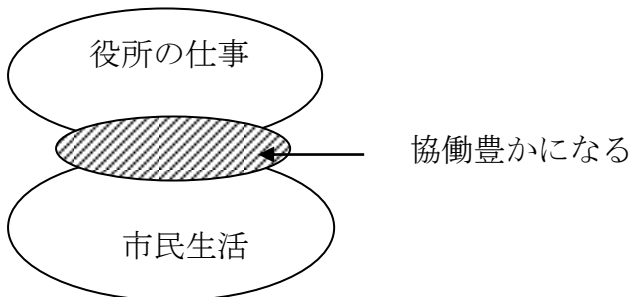
←

↓

協働が必要

- ◆ 他の言葉「パートナーシップ」のほうがいい
- ◆ 時間が足りない

<市民協働のまちづくりで望ましい姿や仕組み>




グループ9

<協働の必要性>

- ◆ 市民と行政、同じ立場
- ◆ 同じ市民同士、目的に向けて必要なもの
- ◆ 公園 草の処理 → 市へクレーム
市民同士で話し合い、自分たちの力で
- ◆ 行政の強み +× 市民の強み
多様性、新しいこと模索
行政だと動けないこと → 動ける形にして行政へ
- ◆ 方法が分かっている人はいいけれどわからない人への伝達
- ◆ コミュニティ → 約束事
公権力 市民の意見反映
ルール ペナルティ
- ◆ 一人一人考え方が違う 立場の違い 理解して行動
- ◆ 行政 新しいことできない
市民 新しいことできる
- ◆ 行政・市民 情報共有
- ◆ 市民意見まとめる コーディネーター
- ◆ 話題・夢・感性 共有
- ◆ 少数派の意見 大事！
手を挙げて意見を言う

<協働のあり方>

- ◆ ピュア&フェア 参加する人にとって公平


何をするにも楽しいこと
逗子にとって誇らしいもの
全ての人が満足はできない 公正
- ◆ 1回で解決しない → 継続的に
小さいことを吸い上げる仕組み
- ◆ 地域課題 認識
- ◆ 整理する仕組み
- ◆ 課題だけ浮きぼりにしてほったらかし
→自治条例
- ◆ コミュニケーション、共有できる関係
- ◆ ネガティブ → ×

- ◆ 市民それぞれの思いを共有できる仕組み、核となる人・もの 利害調整
- ◆ 夢・理想に向けて 思いの共有・アクション
- ◆ 小学校区の中でも地区によって違う
共有 - 固定的なものではない
テーマはたくさんある それぞれの思い
- ◆ 一人一人がレベルアップ
- ◆ 公共性 何をやっているか公開。
 - ↳ 一人でも多く賛同してもらうために
 - ↳ 助成が大事 → 資金の使い方
- ◆ コミュニケーション = 透明性、信頼性
- ◆ 窓口 たくさんある中のテーマ
選んで
- ◆ コミュニティパーク
- ◆ いかに関心がない人を引き込むか
→ 楽しいこと コミュニティパーク
ふれあいの場
アートフェスティバル
- ◆ 市民参加の人口 SNS、ツール？
- ◆ 活動の拠点 → 交流センター
集まりやすい場所で楽しいこと
- ◆ コミュニケーション・共有
ーお互いに向き合う
- ◆ 市民・職員…そもそものコンセプトを理解しているのか？
- ◆ いつも同じ人、いつも発信する人同じ
- ◆ 住民自治協議会 後方支援

グループ 10

<協働の必要性>

↳あたり前？

- ◆ 市民にとってどうなることが良い協働か
- ◆ 行政はプロなので「仕組み」を作る
- ◆ 市民はめんどくさいことはやりたくない気持ち大きい
→なるべく行政にやってほしい
- ◆ 小学校区の問題も市にまかせっきりでは×では？
- ◆ 誰が何をやるのかハッキリしていない
→市は何やってんだ？ になる
- ◆ 隣近所もわからない。
いざという時に役所のどこに行ったらよいのか？
- ◆ 近所（向こう三軒両隣）、人づきあいがある → コミュニケーション → 困りごと
→一緒にできることは一緒に
- ◆ 下から積み上げる。上からやると「私はいい」になる
- ◆ ごみ問題がスタートになるのでは？

<協働のまちづくりで望ましい姿や仕組み>

→組織が金を貯めないことも大切

- ◆ ごみ問題が基本になるのでは？
自宅を汚くする人はいないのに、まちのごみは見て見ぬふりに。
誰がやるのか？ 市がやると税金が必要 → 無駄な労力がかかる
→市民一人一人がきれいにすること
決められたことをきちんとする
→清掃にかかる費用が下がる
自分のまちを自分で
- ◆ 当初、ごみのレポートを作り回覧した → 啓発に役立った
- ◆ 役員を交代させて、いろんな人に関わらせる → 自覚をもってもらう
- ◆ 市と市民は → 市はここまでと言うこと → 自治
市に全部はムリ
自治会は期待できない？
- ◆ 協働の定義を決めて、協力してやっていく
海岸清掃 → 誰がやるのか？
→ いいものをつくるには役所だけでも市民だけでも×
- ◆ 専門知識は市に手伝ってもらおう。「法」の範囲で

- ◆ 民間で何かやるために協働は必要
- ◆ 協働はあたり前。市民の限界 ⇔ 行政の限界
どっちも見ていくことで自然と協働に
- ◆ 海岸清掃は協働か？